

SDGs 達成に向けた取組み

住宅の長寿命化に取り組み、健康快適で資産価値が下がらない住宅を 一棟でも多く残す



目的・背景

これまで日本の住宅業界が行ってきた家づくりは住宅性能を無視した「スクラップ&ビルド」の考え方でした。私共はここ 20 年近く包摂的で安全かつレジリエントで持続可能な都市造りを目指し、人間居住に重点を置き、家づくりのプロとしてお客様ご家族を守る住まいを造っています。万が一の地震でも住まいが一番安全であり、警察署や消防署と同じレベルの「耐震等級 3」+「制震構造」を全棟で採用し、地震で倒壊しない様な強い住宅を提供しています。また太陽光発電を搭載することで、災害時に一定量の電力供給が可能となります。私共のお客様においては、100%の搭載率を目標としています。

具体的な取組内容

【着工前の流れ】

・(初回面談) これからの家づくりで大切なこと・省エネ住宅を建てるメリットや SDGs に取り組む理由を必ずお伝えしております。

【着工 1 週間～2 週間】

・(配筋検査) 様々な工程の中でも配筋検査は、特に重要な部分で、鉄筋の種類・間隔・大きさが設計図書通りにしているのか検査をします。コンクリート打設前に行うことで建物の安全性や耐久性を担保します。

【着工 1～1.5ヶ月】

・(躯体検査・防水検査) 上棟を行い、屋根、床、壁、サッシなどが設置されると一気に家らしくなります。そこで躯体検査や防水検査を行います。躯体検査では建物の配置や高さ、柱の大きさや位置、梁の大きさや取付ボルトの緩み、構造接合金物の取付けや緩み、面材を留めている釘の間隔等隅々まで検査し、合格してから次工程に進みます。

【着工 1.5～2ヶ月】

・(断熱) 弊社の家づくりと言えば高气密・高断熱住宅です。そこで断熱の工程では断熱材に拘るだけではなく、壁に隙間が無いか確認しながら隙間を充填します。その後、専用の機械を使い気密検査を行います。家全体でどのくらいの隙間があるのか測る検査で、一般的に高气密住宅なら 1cm³/m³を切るレベルを目指したいと言われております。令和 4 年 11 月以降の弊社最高記録は C 値 0.07cm³/m³でした。



気密検査

【着工 4～5ヶ月】

・(完了検査) お引渡し前には完了検査を行います。設備や敷地など関連する法令に適合しているか、不具合が生じていないかなど検査をします。

<ヒコ建設工業と SDGs の関係性について>

③すべての人に健康と福祉を

外気温に左右されず室内の温度差が少ない家にするために大切なのが断熱・気密性能です。断熱気密性能を高めることで、ヒートショックなどの健康被害を防ぐことができます。

⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに

太陽光搭載や、エアコン使用量を減らし、1 年を通して快適に過ごせる家を建てることで化石燃料の消費削減と CO₂ 排出量の低減につながります。

⑩住み続けられるまちづくりを

住宅は自然災害に耐えられる耐久性が必要です。災害が起こった時、数日間間は自活できるよう、太陽光発電や蓄電システムの導入をお施主様にお願ひしています。

⑫つくる責任 つかう責任

私たちに次世代まで住み続けられる家を建てる責任があります。一番大切なのは初期費用はかかっても、環境の負荷が少ない材料を使用することです。

⑩気候変動に具体的な対策を

住宅の省エネを考える時に「パッシブデザイン設計手法」は必須です。また、創エネ設備も積極的に提案しています。

⑮陸の豊かさも守ろう

木造住宅には木材が不可欠です。地産地消の考えの元、伐採後は新たな木を植えてもらい、その木が大きくなる間は、造ったものを大切に使う。そういった循環を意識した使い方をすることで、大切な木材を正しく使い、次世代への森林資源を育てることに取り組んでいます。

成果

住み続けられるまちづくりのために当社では高性能住宅に取り組み、お客様には快適→健康→幸せになっていただいております。全棟ゼロエネルギー住宅(太陽光搭載)です。生活していただく中で温度・湿度・太陽光の発電量、使用電力量などを全棟測定し、測定した上でお客様に住み心地のアンケートをお願いしています。問題などある場合にはお客様と一緒に改善に取り組んでいます。測定したデータ、アンケートは国や大学へ提供し、研究データとして活用していただいております。

自分たちが生活している温度・湿度・電力量などを把握していただくことで SDGs に対して興味をもっていただけるのではないかと思います。

一人でも多くの方々に幸せを届けることが SDGs の目標達成に必要なと思います。そのために私たちはこれからも幸せを届け続けたいと思います。



測定モニター (おんどとり)

担当者の思い

SDGs に取り組もうと思った理由は、弊社が生業としている仕事の中で何ができるか考えた時、住宅を高性能化することにより、二酸化炭素の排出量を少なくすることができる上にそこに住む人が健康的な生活を送ることができるのを知り、一番我々にとって実効性があるものと思ったからです。

「住まい」からの CO₂ 排出の割合は、暖房が約 2 割、給湯が約 2 割、照明・家電製品が約 5 割を占めており、その 1/4 は冷暖房によるものと言われています。ですから冷暖房の省エネルギー対策を行うことは「住まい」の CO₂ 削減のために極めて重要だと考えています。

「建物を高性能化することで、年間の冷暖房エネルギー消費量を大きく削減します。」

〈代表取締役 松岡 弘〉

